



*R-18

秋山くんの
うすい本

焼きたて シヤヌイカ






秋山くんの
うすい本

ある朝鏡をみると、自分の体が
男になっていた。
「こ、これは…?」

2





私は自分が男性化したことは、西住殿には最初から筒抜けだった。

みほ「優花里さん：いや、もう今は『秋山くん』か：私に見られたただけでこんなガチガチになっちゃうなんて、とんだ変態だね、秋山くん」

西住殿はどこか慣れた手つきで私の淫棒をしごいた。

優花里「あああつ…！西住殿、何か出ちゃいますっ」

びゅるるる。どぴゅつ。

みほ「あーあ。堪え性がないなあ秋山くん。これは、おしおきしなきゃ。」

あゝ

みほ「秋山くんの早漏を直さなきゃ。

このまましばらく置いておくから、かんばってね♥」



西住殿が私の怒張を啜えこんでいる。

みほ「んっ…、ちよつと迫力がいまひとつだな」





西住殿は、とつぜん私の首に手をかけた。
視界がぐにやりと歪み、頭から血の気が引いていく。

優花里「ぐぎっ…あ…がっ…!!」

みほ「っは、あんっ! 秋山くんのおちんちん

おつきくなった…あ」



西住殿に呼吸を解放されたのは、
辺りが明るくなってからだった。

みほ「ああっ：秋山くんのちんちん
すっかりしなびちゃった」

優花里「かはっ：こひゅー：」



優季「おじやましまあーす…
んんん？センパイ？
何やってるんですかあ？」

優季「へえ…」



優花里「あつ、いや。その…」

桂利奈「はああ。秋山センパイのおちんちん
いいよお…」



れろれる。ぐちよぐちよ。
聴覚が湿っぽい音でいっぱいになり、
未知の感覚がこみあげてくる。

桂利里「秋山センパイの弱点はつけく〜ん!!」
優季「ここがいいんですね、せんばあい。」

れろれる。
私は今、この二人に脳みそを犯されている。

優季 「朝になっちゃいましたねえ…
センパイ？ 膣中に射精した
回数だけ、わたしの太ももに
落書きしてください♡」

優花里 「ぜえ…はあ… 宇津木殿？
もう朝になってるのですが…」

優季 「こんなんじゃない、全然満足できないですよお
学校さぼってもう一日中セックスしたいです♡」

桂利奈

「あいいい…秋山センパイのおちんちん
やっぱり大きすぎるよ…
おまんこ裂けちやっただかも…」

正正正
正正正

うさぎさんチームのおもちやにされる
秋山くん





「いいこと考えた！みんなでも、
秋山センパイのおちんちん
共有するってのはどうかな？」



サンダーダンス大付属高校に潜入中に捕らえられた秋山くん



アリサ「あんたが男なのに戦車道やってる変人ね？
噂通りの大きいチンコだけど、すぐ萎えたりして
私の期待を削がないでね！」

1時間後：

アリサ「あひっ…ふあっ…
おびんほもひいひれふ…」

優花里「この子なんかバカになっちゃったんですが
どうしましょう？」



アンツイオ潜入に成功した優花里だが、
統帥アンチヨビの制服の白タイツに
悶々とした気持ちを抱き、我慢できなくなってしまった。

優花里「統帥！私の股間に悪性腫瘍が現れました！

統帥の御御足で清めて頂けなければ、私の命が……！」

アンチヨビ「そうなのか？……それは大変だ！

こ……こうか？」

優花里「あっあっ……いいです統帥、はるかにいいです、んっ……」
アンチヨビ「変な声を出すな！こっちまで恥ずかしくなる……ッ！」



どびゅー！びゅるるるっ！

アンチヨビ「うわっ…なんだこれ、うっ…臭い…！
…待てよ？これは…
おい！自分で出したものなんだから、
自分で処理するのが筋じゃないか？」

精液にまみれた両足が、優花里の顔面に押し付けられる。

優花里「むごあっ！んむ…じゅるるっ…！
はぷっ。ちゅぱちゅぱ…！」

アンチヨビ「あああああ！やっぱりそうか。こいつ、変態で男だ！」



優花里「うっ…こんなことをして、どういっつもりですか！」

アンチヨビ「ちんこの先濡らしてる奴が、よく言うよ！」

お前みたいに変態をどうするかは、もう考えているんだ
…ペパロニ！出番だ！こいつのちんこに教え込んでやれ！
ここで変態行為を行ったらどうなるのかをな！」

ペパロニ「了解っす姐さん！…この野郎が変態ですね。

男のくせに女子の制服なんか着やがって。こらしめてやる！」

ペパロニ「ところで、てめえいい胸してんじゃねーか。」

そう言うや否や、彼女は私の胸を齧り出した。
噛み跡に血が滲む。
優花里「!!!????!!」

同時に彼女の手は優しく亀頭を包み込む。
痛みと快感が射精を誘発した。
目がチカチカする。

ペパロニ「何やってんだ。だらしねえ奴だなあ!
あたしが満足するまでくたばるなよ」



西住殿の調教を受けているところ、
逸見殿が連れてこられた
：彼女の股間には膨張した男性器があった。
その表面は濡れていた。濡れている部分まで
西住殿の口淫を受けたように見える。妬ましい。
西住殿の太腿を垂れる液体は：？

みほ「秋山くんは今からエリカさんとセックスしてね
エリカさんにお尻をほじくられて、女の子の快感を取り戻すの」

エリカ「えっ：あんな男だったの？
：とんだ変態ね：」



逸見殿の怒張が私のお腹を撞き回す。
太ももを通して感じる彼女の肢体の柔らかさと
下腹に感じる剛直との違和感が、思考を灼いていく。

哀れにも宙ぶらりんになった私の肉棒は、
先端だけ西住殿に啜えられている。
せめて根元まで啜えて頂ければ良かったが、
それを主張するだけの力はもはやなかった。





22

泣いてるよ...
たまたまにゃあ、あはれ。

クッ!!!

秋山くんの うすい本

あとがき

お手にとって頂きありがとうございます。おおむしです。
今回は、秋山くんが色々な女の子のおもちゃにされる感じで描きました。
ぐへへっへ。秋山くんは戦車道女子の精液タンクよ。
そのため説明しますと、秋山くんとは、
twitter界隈で一部のガルパンおじさんに持て囃されている、
秋山優花里を男体化させた存在です。
また、今回の本は漫画ではありませんが、理由としては、秋山くんの妄想が
尽きず、漫画にしたら絶対まとめられないだろこれ…となったため、
一枚絵+セリフ方式で統一させていただきました。

沙織さんはここまで描いて出しませんでした。▶
さおりさんごめんなさい。



秋山くんのうすい本

発行

焼きたて 

あおむし

印刷

PICO 様

連絡先

<http://yakitatejamaica.wordpress.com>

Twitter @ykttJAM

Pixiv id=173199